

日蓮大聖人御書全集

ときどのごへんじ

富木殿御返事

へいゆきがん こと

（平癒祈願の事）

新版
1352
〜
1353

ときどのごへんじ　へいゆきがん　こと

富木殿御返事（平癒祈願の事）

こうあん　ねん　がつ　にち　さい　ときじょうにん

弘安4年（'81）11月29日　60歳　富木常忍

がもくひとゆい　てんだいだいし　ごほうぜん　しょうごん　そうら　お

鵜目一結、天台大師の御宝前を莊嚴し候い了わんぬ。

きょう　い　ほつけ　もつと　だいいち　い　よ

経に云わく「法華は最も第一なり」。また云わく「能く

きょうてん　じゅじ　もの

この經典を受持することあらん者もまたかくのごとく、

いつさいしゅじょう　なか　だいいち

一切衆生の中において、またこれ第一なり。また云わく

ふく　かれ　す　みょうらくい　のうらん　もの

「その福はまた彼に過ぎん」。妙楽云わく「もし悩乱する者

こうべしちぶん　わ　くよう　もの　ふくじゅうごう　す

は頭七分に破れ、供養することあらん者は福十号に過ぐ。

でんぎようだいし　ほ　もの　ふく　あんみよう　つ　そし　もの　つみ

伝教大師も「讃むる者は福を安明に積み、謗る者は罪を

むけん ひら とううんぬん き じゅう い ほうべん ごくい こ

無間に開く」等云々。記の十に云わく「方便の極位に居す

ぼさつ だいごじゅうにん およ とううんぬん けこんきよう

る菩薩すら、なお第五十人に及ばず」等云々。華嚴經の

ほうえ くだくりん だいにちきよう こんごうさつたとう ほけきよう はくじ

法慧・功德林、大日經の金剛薩埵等、なお法華經の博地に

およ しゅう がんそとう ほうぞう ぜんむい

及ばず。いかにいわんや、その宗の元祖等、法蔵・善無畏

とう お

等においてをや。これは、しばらくこれを置く。

あま 御 前 ごしよろう おんこと わ みいつしん うえ 思 そうら

尼ごぜんの御所勞の御事、我が身一身の上とおもい候え

ちゅうや てん もう そうろう あま ほけきよう

ば、昼夜に天に申し候なり。「この尼ごぜんは、法華經の

ぎようじや 養 ともしび あぶら 添 き ね つち 重

行者をやしなうこと、灯に油をそえ、木の根に土をかさ

ねが にちがつてん いのち 代 たま

ぬるがごとし。願わくは、日月天、その命にかわり給え」

もう そろそろ

と申し候なり。また、おもいわするることもとやと、いよ房

伊予ぼう

もう

そろそろ

頼

思

きょうきょうきんげん

に申しつけて候ぞ。たのもしとおぼしめせ。恐々謹言。

じゅういちがつにじゅうくにち

十一月二十九日

にちれん

かおう

日蓮

花押

ときどのごへんじ

富木殿御返事